

# 歩もう 野の鳥の歌が聞こえるまち 計画紹介その10



身近な自然を守り、いきものたちと共に暮らせるまちを未来に伝えていくため平成26年4月から推進している『ささえあう生命の輪 野鳥のすめるまちづくり計画（目黒区生物多様性地域戦略）』のポイントを紹介します。

## 一人ひとりのチェックリスト（一部抜粋）

### 私たち一人ひとりにできることは？

身近な自然を守り、いきものたちと共に暮らすにはどうしたらいいのでしょうか？私たち一人ひとりが、自然やいきものに「触れる」「知る」「考える」「行動する」ことが大切です。日常生活の中でできることもあれば、地域の活動やイベントに参加することでこの計画に取り組むことができます。

右の「一人ひとりのチェックリスト」を参考に、できることから始めてみませんか？



区分	チェック内容
みどり	玄関先やベランダ等、家の周りのみどりを育てます
みず	雨水を園芸用などに利用します 目黒川をのぞきこみ、そこにすんでいるいきものを知ります
食	自分が食べられる量の食材を用意し、食べ残しや食材のあまりを出さないようにします
ふれる	みどりの散歩道を歩き、目黒の社寺や公園を訪ね身近な自然にふれます 花とみどりの学習館や駒場野公園自然観察舎、碑文谷こども動物広場などの活動に参加します
楽しむ	花見や菖蒲湯、七夕やお月見など、季節の行事を楽しみます
まもる	いきものや自然、人や文化との「つながり」をまもる活動に参加します
えらぶ	環境に優しいエコラベル商品を選び、エコバッグを持参して買い物を行います
みなおす	まちに出かけるときは、歩いたり、自転車を使ったりして、ゆっくりと周りの風景を眺めるようにします
いきもの	ペットを飼ったら、最後まで責任もって面倒をみます
事業	生物多様性への理解を深め、自治体、地域住民等との連携・協働を図ります 店や事務所の屋上、壁面、テラス等を緑化します

## 実践者にインタビュー！

### 身近なところからはじめよう みどりに親しむ暮らし

目黒区内のご自宅で月見草を育てていらっしゃる藤巻さんにお話を伺いました



Q 月見草はどのような植物なのでしょうか。  
A 月見草という思い浮かぶお茶などに使われる黄色い花は、実は待宵草（まつよいぐさ）という植物なんです。私が育てているのは、夜に白い花を咲かせる月見草です。夕方に白い花が開き、少しずつピンクに色づいて、朝にはしぼみます。月見草の花は一晩限りの儂い命なのです。  
Q 月見草の魅力はどのようなところでしょうか。  
A 真っ白い花びらがふっくらと膨らみながら開いていき、月明りに照らされた様子はとても感動的です。私は庭に地植えしていますが、お友達にはベランダの同じプランターで何年も育てている方も

います。植えられた環境を気に入らさえすれば増えてくれるので、気軽に始められるのも魅力だと思います。  
Q みどりを育ててよかったことはありますか。  
A 月見草の花が咲いたり、レモンやブルーベリーの実がなったり、木々を求めて蝶や鳥たちが庭にやってきたり…日々驚きや感動に出会えることです。この感動を、ぜひ皆さんにも日常の中で味わってほしいなと思います。

藤巻さんが月見草の種を分けてくださるそうです。ご興味のある方はみどりと公園課みどりの係（☎5722-9359）へお問い合わせください（数に限りあり）。



左：咲きはじめの月見草 右：明け方の月見草  
（写真提供：藤巻さん）

2019年1月25日発行

目黒区みどりと公園課みどりの係  
〒153-8573 目黒区上目黒2-19-15  
TEL: 03-5722-9359  
FAX: 03-3792-2112  
メール: sizen@city.meguro.tokyo.jp  
【作成】(株)自然教育研究センター